

# 「差別図書」の完全回収にご協力を



回収率

86.7%

## 禅門曹洞法語全集・坤

- 「差別戒名」の指南書である「禅門小僧訓」が収録されている

回収率

80.4%



## 曹洞宗全書 拾遺

- 「悪しき業論」に根ざした考え方の「切紙」を収録
- 「差別儀礼」を修行せよと指導している



回収率

51.5%

- 被差別民、ハンセン病患者、精神に障がいを持つ人びとに対して、葬儀の際に「差別儀礼」を行うように指導している

## 洞上室内切紙参話研究並秘録

(洞上室内切紙並参話研究手記)

(洞上室内切紙並参話研究、洞上室内秘録合本)

「補訂復刻版」との交換

「差別図書」を放置しておくことは、新たな差別を生み出す可能性を残すばかりではなく、放置しておくこと自体が実は差別を容認していることになります。ぜひとも、もう一度、書棚や書庫をご点検いただき、新たに「差別図書」が見つかったときには、回収にご協力下さい。回収にご協力いただいた方には、当該書籍に「注意書き」や「解説」を付した「補訂復刻版」を交換本としてお送りしております。詳細は人権擁護推進本部へお問い合わせ下さい。

提出先：曹洞宗人権擁護推進本部

〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 ☎03-3454-5411(代表)

☎03-3454-3546(直通) FAX 03-3454-7699

### 「差別図書」回収状況

2012.7.31現在

書名	発行	発行部数	回収部数	回収率%
洞上室内切紙参話研究並秘録	4種7版	6000	3093	51.5%
禅門曹洞法語全集・坤 (初版部数不明)	2種3版	700	607	86.7%
曹洞宗全書 拾遺 (初版部数不明)	2種2版	1233	992	80.4%

『曹洞宗修証義説教大全』にみられるような「修証義」の差別説教、なかんずく「旃陀羅」の問題などは、「宗典」の解説に関する問題であり、宗門の教えと深く関わる問題です。

『修証義』の「三時業」などに関わる悪しき「業」論の問題では、これまでの検討によって、差別につながるいくつかの説教のパターンがあることを確認しております。今後は、『曹洞宗修証義説教大全』のような「説教書」の類の差別事象の総点検を行い、その誤りを指摘し、差別を繰り返さないための取り組みを行ってまいります。

つきましては、各位において『曹洞宗修証義説教大全』が蔵書の中にあるかどうか、その有無を点検され、「差別図書」回収へのご協力をお願いいたします。

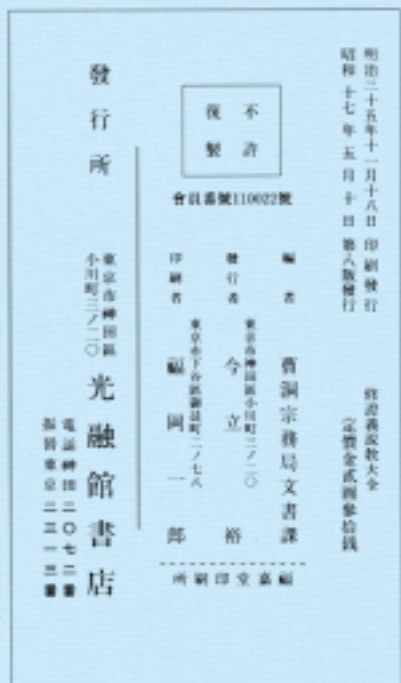
### 『曹洞宗修証義説教大全』中の差別事象例

「種姓」といふは、天然には四姓といふて、波羅門、刹帝利、毘舍、首陀と稱する四通の人民の階級がある、丁度日本の古代の源平藤橘の四姓、徳川幕府時代の士農工商の階級のやうなものである、そのほかに旃陀羅といふて日本の昔の穢多のやうな一階があつて、身分の高い者は低い者を牛馬犬猫同様に扱ふ風があつた。

（『曹洞宗修証義説教大全』三五八頁～三五九頁抜粋）

⑧「穢多」という差別語が使用されているのみならず、それを「旃陀羅」というインドの「ダリット（被差別民衆）」にあてはめ、さらに身分制度や差別に対して無批判で肯定的な説明をし、文章全体が差別的な内容となっている。

## 曹洞宗修証義説教大全



### 『曹洞宗修証義説教大全』回収について

『曹洞宗修証義説教大全』は、明治期の曹洞宗の『宗報』第71号（1899〈明治32〉年12月1日、曹洞宗務局文書課、月二回発行）から『宗報』第126号（1902〈明治35〉年3月15日発行）まで『修証義』に関する説教が連載され、それが一冊の本にまとめられる形で出版されたものです。

編著者は曹洞宗務局文書課（ただし昭和2年の第七版のときのみは「釋宗演」が著者となっているが、これは誤植で後に訂正されている）、発行所は光融館（東京市神田区河台袋町一番地、現在不明）となっています。

1902〈明治35〉年11月18日に初版発行、版を重ねること八回、第八版は1942〈昭和17〉年5月10日の発行です。発行部数、販売部数などについては現在までのところ明らかになっておりません。

本書には部落差別はじめ身分、職業、性、民族に関わる差別事象が確認されています。早急に書庫、書棚等をご点検いただき、所蔵されていた場合には、すみやかに回収にご協力ください。